

# 庄内川総合水系環境整備事業

## 説明資料

平成29年12月18日

国土交通省中部地方整備局  
庄内川河川事務所

## 目 次

1. 流域の概要	2
2. 事業の目的及び概要	3
3. 計画内容と事業の投資効果	5
4. 評価の視点	
(1) 事業の必要性等に関する視点	
1) 事業を巡る社会経済情勢等の変化	12
2) 事業の進捗状況	13
(2) 費用対効果分析	18
(3) 事業の進捗の見込みの視点	20
(4) コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点	23
(5) 完了箇所評価の視点	24
5. 県への意見聴取結果	25
6. 対応方針（原案）	26

# 1. 流域の概要

- ・庄内川の流域は、中部圏最大の都市である名古屋市を中心部などが位置し、地域の中核機能や各種交通機関の拠点が集中している。
- ・都市河川でありながら、水際にヨシ群落などの湿性植物が分布するなど自然豊かな環境が存在し、河口部はラムサール条約の登録湿地である。
- ・また、上流から下流の都市域においては河川敷等が貴重なオープンスペースとなっており、市民団体等の取り組みも相まって、散策・自然観察・環境教育の場として活用されている。



- 流域面積：1,010km<sup>2</sup>
- 幹川流路延長：約96km
- 大臣管理区間：
  - 庄内川 62.5km
  - 矢田川 7.0km 等
- 流域内市町村：19市 4町  
(名古屋市、多治見市等)
- 流域内人口：
  - 約440万人
- 年平均降水量：
  - 約1,500~1,700mm  
(山間部)
  - 約1,400~1,500mm  
(平野部)

## 2. 事業の目的及び概要

### 【事業の目的】

- ◆自然再生事業：良好な環境に生息する多様な生物が生息することをめざし、多様な水際の創出や河道環境の縦断的なネットワークの形成を図る。
- ◆水辺整備事業：関係機関との連携による河川環境体験の場の更なる利活用を推進するための水辺整備を図る。

### 【事業の概要】

- 事業区間：庄内川・矢田川（岐阜県・愛知県）
- 事業期間：平成12年度～平成40年度
- 全体事業費：約19億円
- 整備内容：計7箇所  
【継続】自然再生1箇所【完了】水辺整備5箇所【とりやめ】水辺整備1箇所

### ▽庄内川自然再生事業

実施箇所	内容	期間
しょうないがわ 1.庄内川上流部 自然再生	レキ河原の 再生	H22-40

### ▽庄内川水辺整備事業

実施箇所	内容	期間
しょうないがわ 2.庄内川河口部 水辺整備	管理用通路・階段	H20-29 (H24工事完了)
にしびわじま 3.西枇杷島地区 水辺整備	管理用通路 階段護岸 高水敷整正	H18-29 (H25工事完了)
やだがわ 4.矢田川地区 水辺整備	階段整備 ワンドの整備	H18-29 (H26工事完了)
しだみ 5.志段味地区 水辺整備	ビオトープの整備	H12-29 (H26完了)
とよおか 6.豊岡地区 水辺整備	管理用通路・階段護岸 病院と連携した河川整備	H17-29 (H25工事完了)
かすがい 7.春日井地区 水辺整備	階段護岸整備	H27-32

### 実施箇所

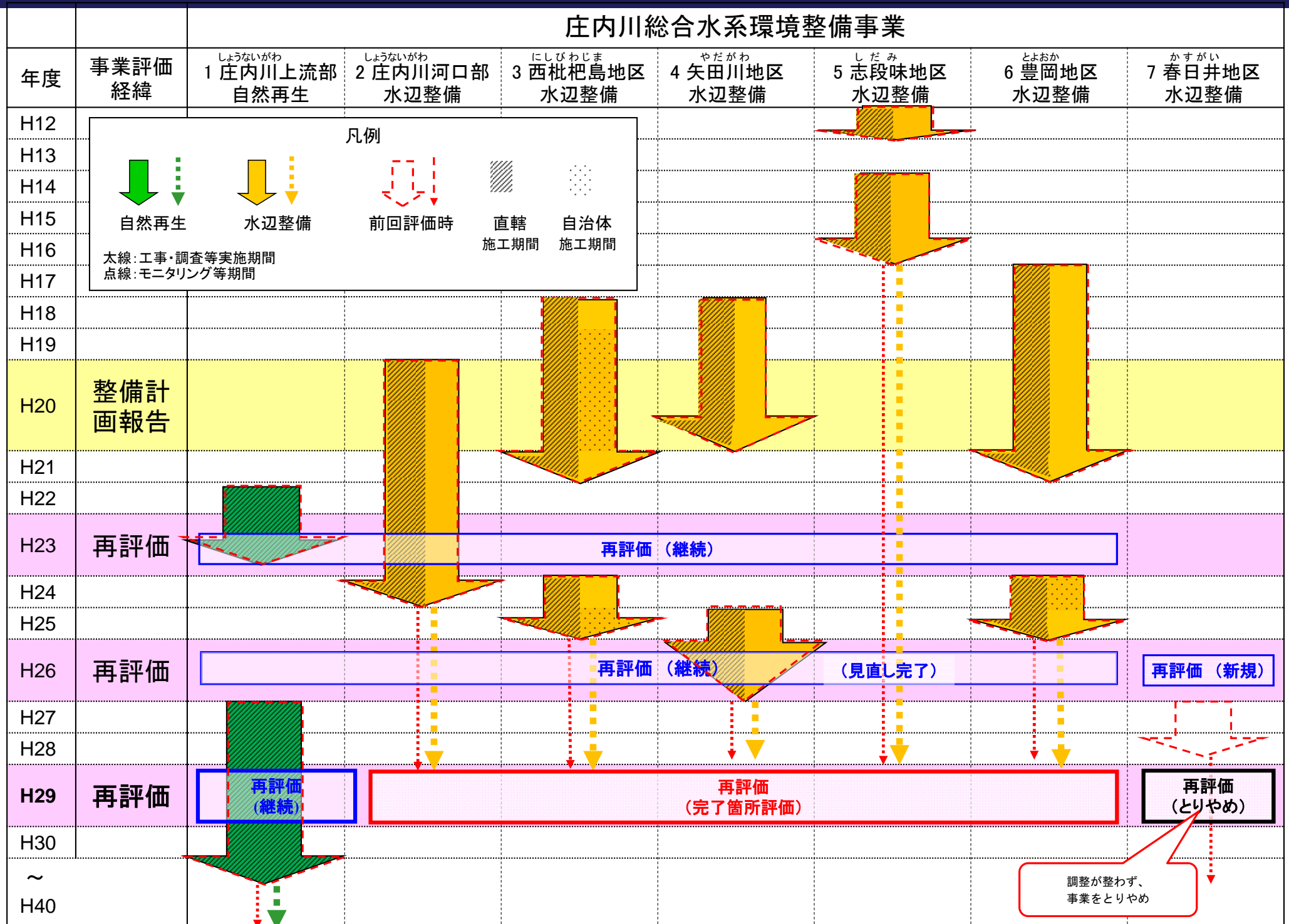


凡例  
 水辺整備
  自然再生

  の事業は、工事継続中・今後工事予定

  の事業は、工事完了   の事業はとりやめ

# これまでの経緯と今回の評価等について



# 3. 計画内容と事業の投資効果

## (1) 庄内川上流部自然再生

### 整備の必要性

#### <背景>

・昭和20年代の庄内川上流部(土岐川)においては、レキ河原の環境が形成されていたが、滞筋の固定化に伴う局所洗掘の進行により、レキ河原の冠水、攪乱頻度が減少したため、植生が進入・定着し、レキ河原環境が減少している。また、土岐川の原因風景でもあるレキ河原の再生について地元からの要望がある。

#### <課題>

・洪水時による攪乱頻度が減少したことによる河岸の陸域化、単調な低水路の河道環境になることで、生息環境の変質による生物への影響が懸念される。

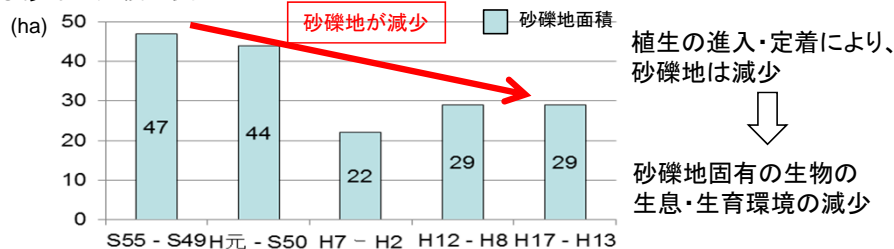
#### <対策>

・レキ河原固有植物、浅瀬に生息するアカザなどの再生を図るため、冠水・攪乱頻度を考慮して陸地化・崖地化した箇所の切り下げを行い、レキ河原再生を順次実施する。

●昭和20年代の庄内川上流部(土岐川)航空写真



●砂礫地面積の変化



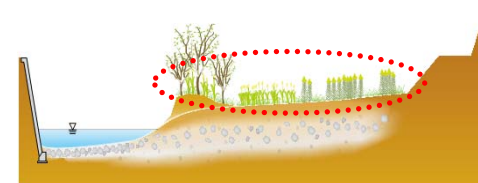
### 整備内容

#### 整備箇所

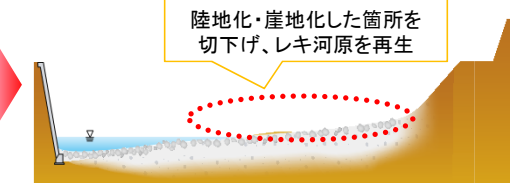


#### 整備内容

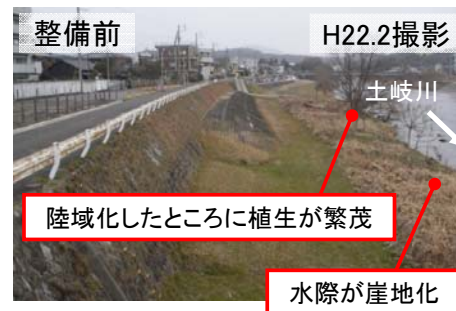
●レキ河原再生前のイメージ



●レキ河原再生後のイメージ



#### 取り組み前



#### 取り組み後



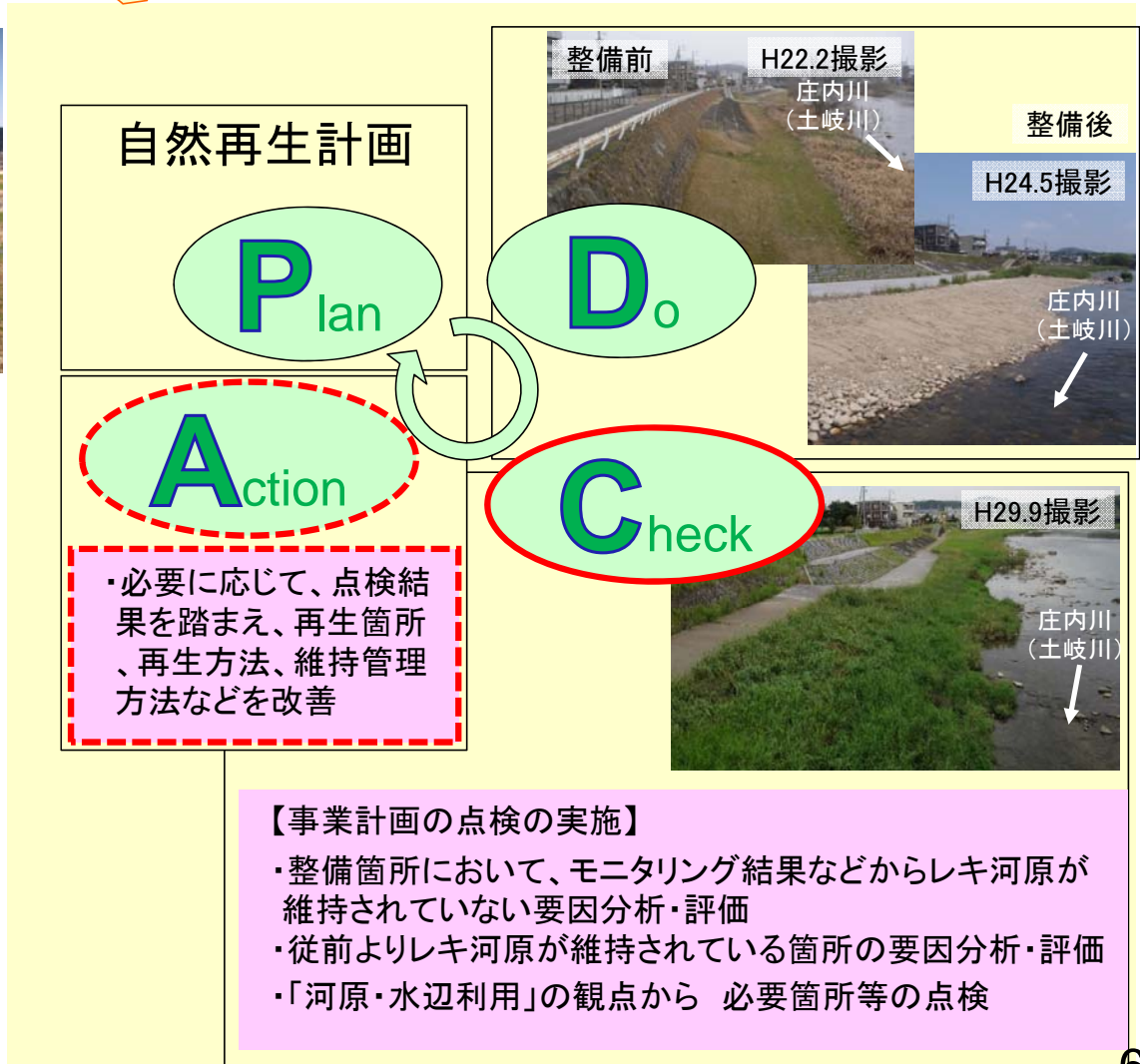
# 3. 計画内容と事業の投資効果

## (1) 庄内川上流部自然再生

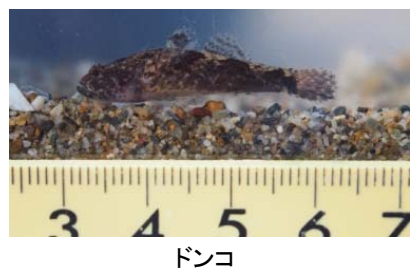
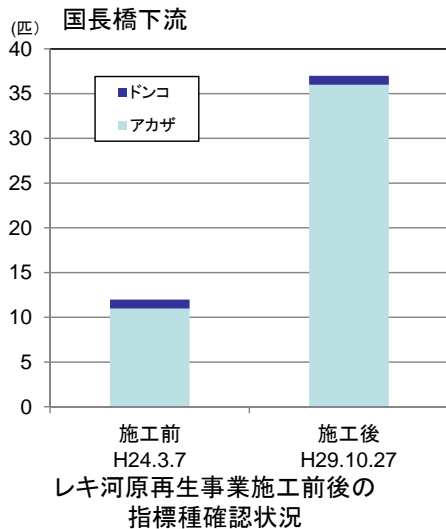
### 事業の投資効果

- ・庄内川上流部(土岐川)の原風景であるレキ河原を取り戻すことで、アカザ・ドンコの確認数が増加しているほか、水辺利用の活発化等、水辺環境の改善が図られている。
- ・一方、一部の整備箇所においては、土砂の再堆積に伴う草地化が進行し、レキ河原を維持できていない整備箇所も見られることから、順応的管理による礫河原再生を実施していく。

#### ○整備済箇所の状況



#### ○指標種の確認状況



# 3. 計画内容と事業の投資効果

## (2) 庄内川河口部水辺整備

### 整備の必要性

#### <背景>

- 庄内川河口部は、ヨシ原や、ラムサール条約の登録湿地である藤前干潟が広がっており、干潟の観察・保全、水辺の散策などの利用ニーズが多い。

#### <課題>

- 河川敷へのアクセスがしにくいことから、水辺空間の安全性や利便性を確保する必要がある。

#### <対策>

- 水辺空間の安全性や利便性を確保するため、散策路としても利用可能な河川管理用通路・階段の整備を実施した。

### 整備内容

#### 整備箇所



#### 整備前



#### 整備後



管理用通路・階段の整備により、安全に利用出来るようになった





# 3. 計画内容と事業の投資効果 (2) 庄内川河口部水辺整備

## 事業の投資効果

- 水辺整備により、水辺利用の安全性が確保され、干潟やヨシ原に生息・生育する野鳥や水生生物の観察など環境学習の場として活用されている。
- また、整備した道路は、環境保全活動を行う団体等により、野鳥観察やクリーン大作戦等、藤前干潟の保全にも利用されている。
- 名古屋市野鳥観察館による野鳥観察会が毎月1回開催されており、毎回約30名程度の親子連れが参加している。



H28.6撮影  
小学生による環境学習の様子



H29.1撮影  
小学生によるヨシ刈り体験

名古屋野鳥観察館  
愛鳥週間イベント2017

5月10日～16日は「愛鳥週間(ハードワーク)」です。この期間の観鳥干潟には、シロ・チドリなどがあつてきており、それらの貴重な鳥を観察することが出来ます。名古屋野鳥観察館では、干潟のベストシーズンである愛鳥週間の時期に写真展や探鳥会などのイベントを開催します。ぜひご参加ください。

★野鳥写真展「私の好きな鳥」  
【期間】4月22日(土)～5月28日(日)  
【展示】16点(展示場所は150名まで)  
【場所】名古屋野鳥観察館2階 ☆入館無料  
※一般のみなさんからの募集した写真を展示します。  
※展示期間は4月19日(土)まで開催。  
詳しくは、那珂クラスタまたは名古屋野鳥観察館にて。  
TEL: 052-734-1111 (受付時間: 9:00～16:00)

5月13日(土) ★野鳥ミニ講座「強のしくみを知って、しおりを作ろう!」  
【期間】4月22日(土)～5月28日(日)  
【展示】16点(展示場所は150名まで)  
【場所】名古屋野鳥観察館2階 ☆入館無料  
※一般のみなさんからの募集した写真を展示します。  
※展示期間は4月19日(土)まで開催。  
詳しくは、那珂クラスタまたは名古屋野鳥観察館にて。  
TEL: 052-734-1111 (受付時間: 9:00～16:00)

5月13日(土)・14日(日) ★野鳥ビンゴゲーム(小学生以下対象)  
【期間】4月22日(土)～5月28日(日)  
【展示】16点(展示場所は150名まで)  
【場所】名古屋野鳥観察館2階 ☆入館無料  
※一般のみなさんからの募集した写真を展示します。  
※展示期間は4月19日(土)まで開催。  
詳しくは、那珂クラスタまたは名古屋野鳥観察館にて。  
TEL: 052-734-1111 (受付時間: 9:00～16:00)

5月14日(日) ★探鳥会  
【期間】4月22日(土)～5月28日(日)  
【展示】16点(展示場所は150名まで)  
【場所】名古屋野鳥観察館2階 ☆入館無料  
※一般のみなさんからの募集した写真を展示します。  
※展示期間は4月19日(土)まで開催。  
詳しくは、那珂クラスタまたは名古屋野鳥観察館にて。  
TEL: 052-734-1111 (受付時間: 9:00～16:00)

★野鳥のおはなし  
「遅った鳥・増えた鳥～愛鳥週間の野鳥の復活～」  
【期間】4月22日(土)～5月28日(日)  
【展示】16点(展示場所は150名まで)  
【場所】名古屋野鳥観察館2階 ☆入館無料  
※一般のみなさんからの募集した写真を展示します。  
※展示期間は4月19日(土)まで開催。  
詳しくは、那珂クラスタまたは名古屋野鳥観察館にて。  
TEL: 052-734-1111 (受付時間: 9:00～16:00)

名古屋市野鳥観察館による  
野鳥観察会のお知らせ



H28.10撮影  
庄内川河口部で実施されているクリーン大作戦



H28.10撮影



名古屋市野鳥観察館による観察会(H28.9)

# 3. 計画内容と事業の投資効果

## (3) 西枇杷島地区水辺整備

### 整備の必要性

#### <背景>

- ・ 西枇杷島地区では東海豪雨を契機に堤防強化や防災拠点の整備が行われた。
- ・ 防災拠点(みずとびあ庄内)は平常時は地域の交流拠点として活用されており、みずとびあ庄内を中心とした2市1町が連携したかわまちづくりが進められている。

#### <課題>

- ・ 2市1町が連携したかわまちづくりを推進するにあたって、コンクリート護岸に階段がないこと、河川敷に植生が繁茂していることから、水辺空間の安全性や利便性を確保する必要がある。

#### <対策>

- ・ 「庄内緑地公園」から清須市の「みずとびあ庄内」、あま市を経て大治町の「庄内川河川敷公園」に至る2市1町を結ぶ管理用通路、階段護岸、高水敷整正の整備を実施した。

### 整備内容

#### 整備箇所



#### 整備前



#### 整備後



### 3. 計画内容と事業の投資効果 (3) 西枇杷島地区水辺整備

完了箇所評価

#### 事業の投資効果

- ・ 水辺整備により、河川敷が2市1町を結ぶ交流ルートとして、また、地域住民のイベント(ウォークイベント・みずとぴあ庄内朝市・西枇杷島まつり)や憩いの場として利活用されている。
- ・ 近隣の小学校等により、安全な河川環境体験の場として利活用されている。



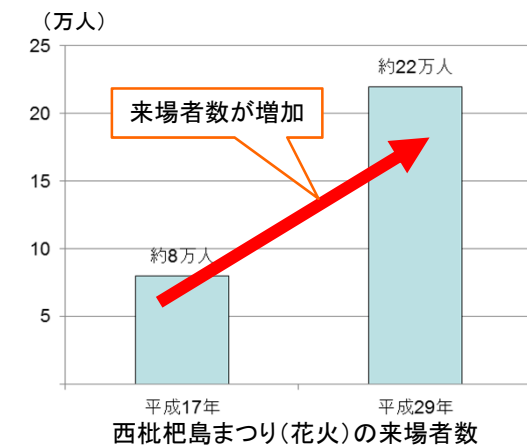
H28.6撮影

「庄内川水辺の散策路及び大治町庄内川河川敷公園」  
第2回ウォーキング



H29.6撮影

西枇杷島まつり(花火)  
約22万人参加(平成29年度実績)



H28.5撮影

みずとぴあ庄内朝市の様子  
(月1回の実施)



H28.10撮影

イベント「りばーぴあ庄内川」によるEボート体験



H28.5撮影

地元小学校による環境学習の様子

# 3. 計画内容と事業の投資効果

## (4) 矢田川地区水辺整備

### 整備の必要性

#### <背景>

- ・ 矢田川の河川敷や水辺は、都市部における貴重な自然空間となっている。
- ・ 近隣の小学校や幼稚園からの環境学習、川遊び体験等のニーズが多い。

#### <課題>

- ・ コンクリート護岸には階段がなく、水際に植生が繁茂し、直線河道であることから、水辺利用の安全性・多様性を確保する必要がある。

#### <対策>

- ・ 水辺利用の安全性を確保するとともに、環境学習の場として活用できる自然観察空間を創出すべく、階段護岸やワンドの整備を実施した。

※ワンド: 川の本流とつながった池状の入り江

### 整備内容

#### 整備箇所



- : 整備箇所
- : 近隣の小学校、保育園、幼稚園

#### 整備前

##### 《北区水辺整備箇所》



H19.6撮影

#### 整備後

##### 階段護岸の整備



H29.8撮影

##### 《東区水辺整備箇所》



H26.6撮影

##### 階段護岸の整備



H27.12撮影

# 3. 計画内容と事業の投資効果

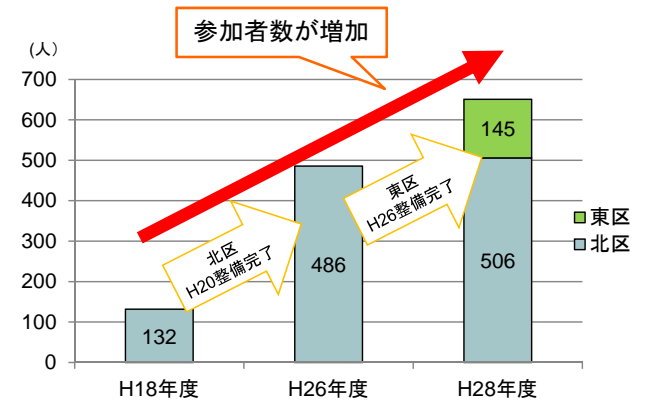
## (4) 矢田川地区水辺整備

### 事業の投資効果

- ・ 水辺整備により、水辺利用の安全性が確保され、近隣の小学校や幼稚園による環境学習等の場として利活用されている。
- ・ ワンド環境の創出により、水生生物の観察会などで、たくさんの生物(毎回20種ほど)が確認されている。
- ・ 地域住民と協働した矢田川子どもの水辺協議会における水辺利用の取り組みは、河川財団の啓発活動部門において全国の優秀成果として表彰(H27年度)を受けた。



小学生による環境学習の様子



環境学習で捕獲した魚類



「矢田川子どもの水辺協議会」による清掃活動



全国の優秀事例として表彰された取り組み

# 3. 計画内容と事業の投資効果

## (5) 志段味地区水辺整備

### 整備の必要性

#### <背景>

- 志段味地区周辺は、名古屋市の土地区画整理事業である「なごやサイエンスパーク(当初:志段味ヒューマン・サイエンス・タウン)」におけるBゾーンとして大学誘致が計画されており、その周辺における良好な水辺環境の保全のニーズが高い。

#### <課題>

- 名古屋市の都市化が進行する中、志段味地区は残された数少ない自然空間であり、中流域の多様な生態系を保全するとともに、水辺利用の安全性を確保する必要がある。

#### <対策>

- 多様な生態系を保全するとともに、環境学習の場として活用できる自然観察空間を創出すべく、ビオトープの整備を実施した。

#### <事業内容見直しの経緯>

##### 【平成12年度～平成13年度】

- 「なごやサイエンスパーク」に先行して、ビオトープの整備を実施。

##### 【平成17年度～】

- なごやサイエンスパーク(Bゾーン)の遅延に鑑み、その動向を見据えて水辺整備事業を展開するため、**事業を一時休止**とした。

その後、平成24年6月に名古屋市がなごやサイエンスパーク(Bゾーン)における大学誘致を断念した。

##### 【平成26年度】

- 整備済みのビオトープ池等において地域の方々による継続的な利用がされており一定の投資効果が得られている一方、大学誘致の断念によって周辺事業との連携の必要性が低くなり、当初想定していたニーズが見込めないことから、**計画を見直した上で、完了**とした。

### 整備内容

#### 整備箇所



#### 整備箇所

- 当初計画 (Red outline)
- 計画見直し後 (Blue outline)

#### 当初計画



H12以前撮影

- 「ビオトープ」ほか複数の水辺整備を計画

#### 計画見直し後



H27.1撮影

- 水辺の整備(ビオトープの整備)【実施済 H12～H16】

### 3. 計画内容と事業の投資効果 (5) 志段味地区水辺整備

#### 事業の投資効果

- ・「志段味ビオトープで遊ぼう」等の川遊び体験イベントなどで年間で延べ700人以上(平成28年度実績)に利用されており、河川環境に関する関心の高まりが見られる。
- ・ビオトープの維持・保全作業は、河川協力団体が行っており、年間で延べ100人以上(平成28年度実績)が参加している。



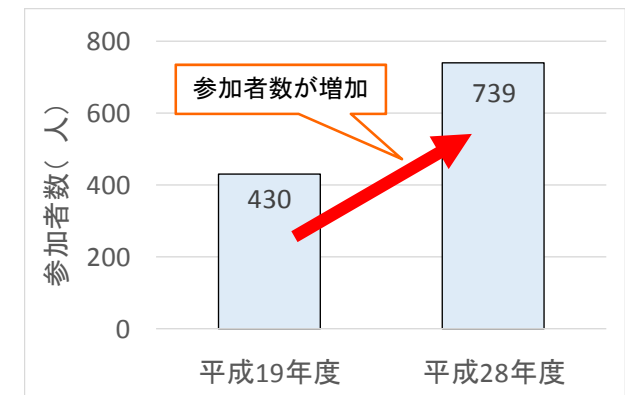
H29.3撮影

春、夏に開催される「志段味ビオトープで遊ぼう」では、近年、300～400人/回の参加者で賑わう



H29.3撮影

「志段味ビオトープで遊ぼう」によるEボート体験



「志段味ビオトープで遊ぼう」の参加者数



H29.8 撮影

河川協力団体(庄内川流域ネットワーク)によるビオトープ維持・保全作業



H29.8 撮影



H29.3撮影

「かわらなでしこ」の保護活動

# 3. 計画内容と事業の投資効果

## (6) 豊岡地区水辺整備

### 整備の必要性

#### <背景>

・多治見市内では、商店街等のまちづくりや、市民病院の整備と連携したかわまちづくりが進められており、また、近隣の土岐川観察館(多治見市)は市民団体の交流・環境学習等の活動拠点となっている。

#### <課題>

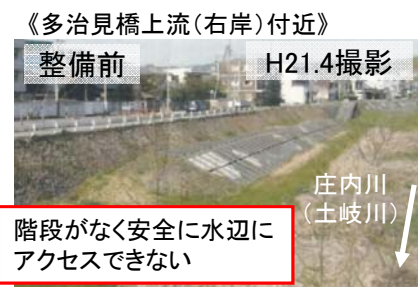
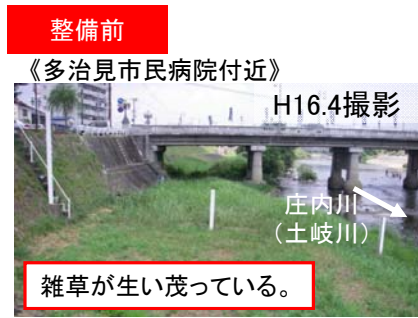
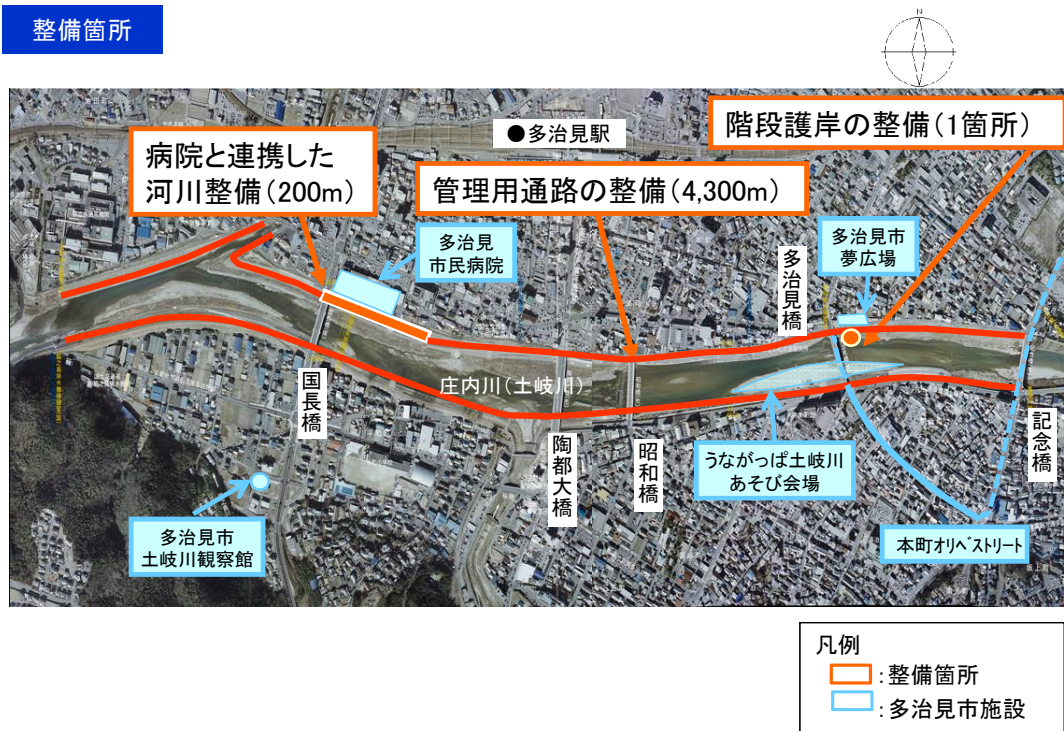
・かわまちづくりを推進するにあたって、河川敷にアクセスする階段が無いこと、河川敷に植生が繁茂していることから、水辺空間の安全性や利便性を確保する必要がある。

#### <対策>

・多治見市による夢広場の整備や市民病院の整備に合わせ、管理用通路・階段護岸の整備を実施した。

### 整備内容

#### 整備箇所





# 3. 計画内容と事業の投資効果

## (6) 豊岡地区水辺整備

### 事業の投資効果

- ・ 水辺整備により、地域住民と共同したイベントや、憩いの場として利活用されている。
- ・ 多治見市民病院と堤防を繋ぐブリッジや管理用通路・坂路により、入院患者等が気軽に堤防にアクセスし、リハビリ等に役立てられている。
- ・ 本町オリベストリートでは、昭和初期の蔵や古い商家を美濃焼ショップやギャラリーに改装した新しい店が続々とオープンしており、たじみ陶器まつり(来場者数約15万人:H29)や多治見まつり(来場者数約3万人:H29)が開催されるなど、賑わいをみせている。



多治見市によるまちづくり(本町オリベストリート)



多治見まつり(夢広場)



たじみ陶器まつり  
(本町オリベストリート)

H28.4撮影



H26.9撮影

多治見市民病院と繋がるブリッジの利用状況



H29.7撮影

「土岐川観察館」による環境学習

# 3. 計画内容と事業の投資効果

## (7) 春日井地区水辺整備

とりやめ

再評価

### 整備の必要性

#### <背景>

- 春日井地区における河川敷は、都市部における貴重な自然空間となっている。
- 近隣の小学校や幼稚園からの環境学習、川遊び体験等のニーズが多い。

#### <課題>

- コンクリート護岸に階段がないこと、水際に植生が繁茂していることから、水辺利用の安全性を確保する必要がある。

#### <対策>

- 水辺利用の安全性を確保するとともに、環境学習の場として活用できるよう、階段護岸の整備を実施する。

### 整備内容

整備箇所



整備前

《上条グラウンド付近》

植生が繁茂し、水辺へのアクセスが困難



整備後(イメージ)

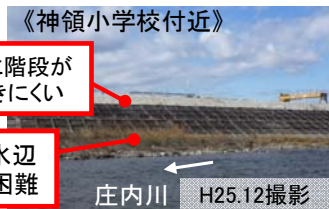
階段護岸の整備



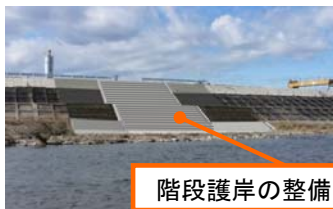
《神領小学校付近》

コンクリート護岸に階段がなく、水辺に近づきにくい

植生が繁茂し、水辺へのアクセスが困難



階段護岸の整備



### とりやめに至る経緯

春日井地区周辺は、近隣の小学校や幼稚園からの環境学習、川遊び体験等のニーズが高かった。

【平成20年度】「水辺の楽校協議会」設立。「子供の水辺」登録。

【平成21年度～】  
「水辺の楽校構想」の作成、水辺の楽校登録に向けた作業。

【平成26年度】  
護岸や高水敷が水辺へ近づきにくい状況であることから、水辺利用の安全性を確保するため、階段護岸整備を計画。(事業評価監視委員会にて審議の上、新規箇所として了承された。)

【平成27年度～平成28年度】  
事業着手に向け、全国的な水に関する事故の発生等を課題としつつ、春日井市と連携して水辺整備箇所において教育・体験活動を行う学校、市民団体との調整を実施していたが、整わず、事業着手を見送り

【平成29年度】  
これまで、春日井市と連携して調整を行ってきたが、最終的には調整が整わず、当面水辺利用のための整備が出来るみこみがないことから、本地区の水辺整備を「とりやめ」とすることを確認。

# 5. 評価の視点

完了箇所評価

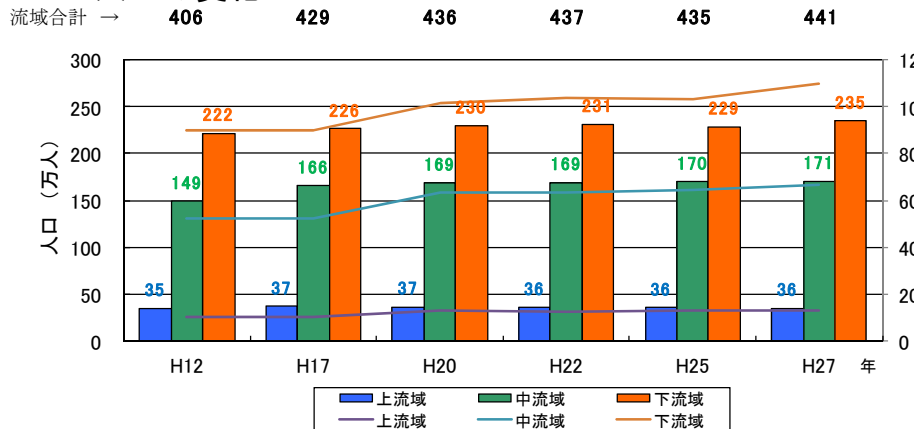
再評価

## (1) 事業の必要性等に関する視点

### 1) 事業を巡る社会経済情勢等の変化

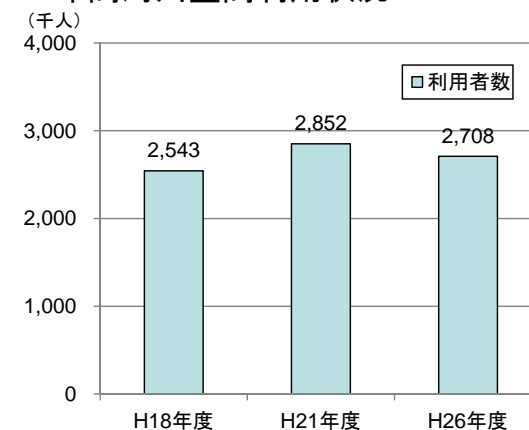
- ・ 流域市町村の人口は、河川整備計画が策定された平成20年以降ほぼ横ばいとなっている。
- ・ 庄内川は都市河川でありながら、豊かな自然が残されている。
- ・ 庄内川アダプト活動をはじめ、環境保全や環境学習などの継続的な地域住民による活動が行われ、水辺利用に関する需要がみられる。

### ▽人口の変化

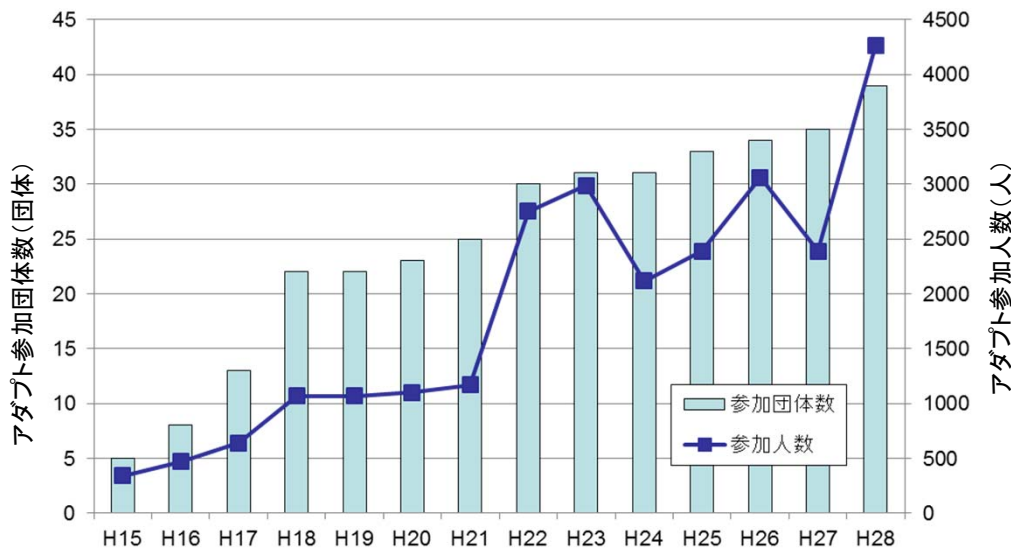


- 上流域**  
多治見市、瑞浪市、恵那市、可児市、土岐市
- 中流域**  
一宮市、瀬戸市、春日井市、犬山市、江南市、小牧市、稲沢市、尾張旭市、岩倉市、長久手市、豊山町、大口町、扶桑町、名古屋市(守山区)
- 下流域**  
名古屋市(守山区を除く)、北名古屋市、清須市、大治町、あま市(旧甚目寺町のみ)

### ▽年間河川空間利用状況



### ▽庄内川アダプト活動の実績



### 庄内川アダプトとは・・・

庄内川沿川に暮らす地域の皆さんと、より良い河川環境を実現し、誇りを持てる庄内川にしていくための市民や企業による自主的な活動を、国土交通省庄内川河川事務所がサポートするものです。



アダプト団体による清掃活動の様子

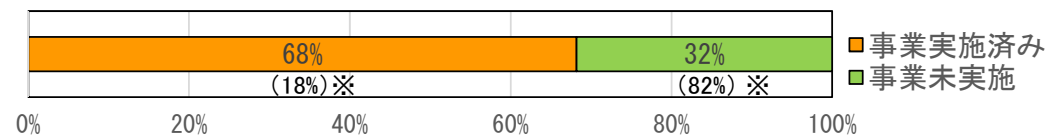
## 5. 評価の視点

### (1) 事業の必要性等に関する視点

### 2) 事業の進捗状況

・庄内川上流部自然再生事業の進捗率は、平成29年度時点事業費ベースで68.2%であり、今後も整備を進めていきます。

#### ○庄内川上流部自然再生事業



庄内川上流部事業費の進捗状況

※( )書きは前回評価時



# 5. 評価の視点

## (2) 費用対効果分析①

完了箇所評価

再評価

事業全体に要する総費用(C)は35億円、総便益(B)は220億円、費用対便益費(B/C)は6.3となる。 ※1

事項		庄内川総合水系環境整備事業						備考
		自然再生		水辺整備				
		地区名	しょうないがわ 庄内川上流部自然再生 <small>再評価</small>	しょうないがわ 庄内川河口部水辺整備 <small>完了箇所評価</small>	にしびわじま 西枇杷島地区水辺整備 <small>完了箇所評価</small>	やだがわ 矢田川地区水辺整備 <small>完了箇所評価</small>	しだみ 志段味地区水辺整備 <small>完了箇所評価</small>	
計算条件	評価時点	平成29年度	平成29年度	平成29年度	平成29年度	平成29年度	平成29年度	
	整備期間	平成22～40年度	平成20～29年度	平成18～29年度	平成18～29年度	平成12～29年度	平成17～29年度	
	評価対象期間	整備期間+50年間	整備期間+50年間	整備期間+50年間	整備期間+50年間	整備期間+50年間	整備期間+50年間	
	受益範囲	事業箇所周辺3km圏 世帯数:38,125世帯	事業箇所周辺2km圏 世帯数:52,737世帯	事業箇所周辺1km圏 世帯数:32,600世帯	事業箇所周辺2km圏 世帯数:94,827世帯	事業箇所周辺2km圏 世帯数:20,843世帯	事業箇所周辺3km圏 世帯数:27,697世帯	
	年便益算定手法	CVM(郵送アンケート) 回答数:622票 有効回答数:273票	CVM(郵送アンケート) 回答数:559票 有効回答数:349票	CVM(郵送アンケート) 回答数:639票 有効回答数:454票	CVM(郵送アンケート) 回答数:581票 有効回答数:374票	CVM(郵送アンケート) 回答数:794票 有効回答数:544票	CVM(郵送アンケート) 回答数:815票 有効回答数:543票	
	支払意思額(WTP)	279円/世帯・月 (3,348円/世帯/年)	272円/世帯・月 (3,264円/世帯/年)	264円/世帯・月 (3,168円/世帯/年)	229円/世帯・月 (2,748円/世帯/年)	214円/世帯・月 (2,568円/世帯/年)	249円/世帯・月 (2,988円/世帯/年)	
B/C算出	総便益(B)(億円)	30	46	27	75	21	21	※1 ※2
	年便益(億円/年)	1.3	1.7	1.0	2.6	0.5	0.8	※3
	便益(億円)	30	46	27	75	21	21	※2
	残存価値(億円)	—	0.05	0.02	0.02	—	0.1	※2
	総費用(C)(億円)	6.3	6.6	10	2.4	2.7	6.8	※2
	事業費(億円)	4.2	6.3	5.9	2.2	2.7	5.4	※2
	維持管理費(億円)	2.1	0.3	4.5	0.2	0.02	1.4	※2 ※4
	B/C(箇所別)	4.8	7.0	2.7	31.3	7.8	3.1	※5
	B/C(分野別)	4.8(6.4)			6.6(8.7)			※5 ※6
B/C(全体)				6.3(8.4)			※5 ※6	

※1: 四捨五入の関係で、合計が一致しない場合がある。

※2: 割引率4%で現在価値化      ※3: WTP×世帯数×12ヶ月

※4: 必要額の積上げ

※5: 総便益(便益+残存価値)／総費用(事業費+維持管理費)

※6: ( )内は前回評価時の数値

5. 評価の視点

(2) 費用対効果分析②

完了箇所評価

再評価

事項		庄内川総合水系環境整備事業再評価						備考	
		自然再生	水辺整備						
地区名		しょうないがわ 庄内川上流部自然再生	しょうないがわ 庄内川河口部水辺整備	にしびわじま 西枇杷島地区水辺整備	やだがわ 矢田川地区水辺整備	しだみ 志段味地区水辺整備	とよおか 豊岡地区水辺整備		
		再評価	完了箇所評価	完了箇所評価	完了箇所評価	完了箇所評価	完了箇所評価		
箇所別B/C	全体事業(B/C)	残事業費 (+10%~-10%)	4.7 ~ 4.8	—	—	—	—	—	
		受益世帯数 (-10%~+10%)	4.3 ~ 5.2	6.5 ~ 7.6	2.4 ~ 2.9	28.8 ~ 33.3	7.0 ~ 8.1	2.9 ~ 3.4	
		残工期 (-10%~+10%)	4.7 ~ 4.8	—	—	—	—	—	
全体B/C	全体事業(B/C)	残事業費 (+10%~-10%)	6.3 ~ 6.3						
		受益世帯数 (-10%~+10%)	5.8 ~ 6.8						
		残工期 (-10%~+10%)	6.2 ~ 6.3						
	残事業(B/C)	残事業費 (+10%~-10%)	4.3 ~ 5.2						
		受益世帯数 (-10%~+10%)	4.4 ~ 5.4						
		残工期 (-10%~+10%)	4.7 ~ 4.8						

# 5. 評価の視点

## (2) 費用対効果分析③

完了箇所評価

再評価

### (前回評価との比較)

事業名		庄内川総合水系環境整備事業		備考
年度	前回評価 (H26)	今回評価		
事業諸元		(7箇所) ■上流部自然再生 ◇矢田川地区水辺整備 ◇春日井地区水辺整備 ◇河口部水辺整備 ◇西枇杷島地区水辺整備 ◇志段味地区水辺整備 ◇豊岡地区水辺整備	(6箇所) ■上流部自然再生 ◇河口部水辺整備 (完) ◇西枇杷島地区水辺整備 (完) ◇矢田川地区水辺整備 (完) ◇志段味地区水辺整備 (完) ◇豊岡地区水辺整備 (完)	■自然再生 ◇水辺整備
計算条件	評価時点	平成26年度	平成29年度	
	整備期間	平成12~40年度	平成12~40年度	
	評価対象期間	整備期間+50年間	整備期間+50年間	
	受益範囲	事業箇所周辺1~3km圏 世帯数：274,491世帯	事業箇所周辺1~3km圏 世帯数：266,829世帯	
	年便益算定手法	CVM (郵送・WEBアンケート) 回答数：2,354票 有効回答数：1,402票	CVM (郵送アンケート) 回答数：4,010票 有効回答数：2,537票	
	支払意思額 (円/月/世帯)	227~421円/世帯・月 (2,724~5,052円/世帯・年)	214~279円/世帯・月 (2,568~3,348円/世帯・年)	
B/C算出	総便益 (B)	239億円	220億円	※1 ※2
	年便益	1.1~3.6億円/年	0.5~2.6億円/年	※3
	便益	239億円	220億円	※2
	残存価値	0.11億円	0.19億円	※2
	総費用 (C)	29億円	35億円	※1 ※2
	事業費	23億円	27億円	※2
	維持管理費	5.7億円	8.5億円	※2 ※4
	B/C (自然再生)	6.4	4.8	※5
B/C (水辺整備)	8.7	6.6	※5	
B/C (水系)	8.4	6.3	※5	

※1: 四捨五入の関係で、合計が一致しない場合がある。  
※4: 必要額の積上げ

※2: 割引率4%で現在価値化      ※3: WTP×世帯数×12ヶ月  
※5: 総便益(便益+残存価値)／総費用(事業費+維持管理費)

## 5. 評価の視点

再評価

### (3) 事業の進捗の見込みの視点

- レキ河原再生の実施に伴い多様な生物の生息・生育環境が再生されるなど一定の効果が認められている。
  - 既存のレキ河原においては、環境学習や「りばーぴあ土岐川遊び」など、地域と連携した利活用が図られている。
  - 一部の整備箇所において、土砂の再堆積に伴う草地化が進行し、レキ河原を維持できていない箇所も見られることから、順応的管理によるレキ河原再生を実施していく。
- 以上のことから、事業実施にあたっての支障はない。

## 5. 評価の視点

再評価

### (4) コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

#### 1) 庄内川上流部自然再生

- 事業費の見直しにあたっては下記等について検討し、コスト縮減に努める。
- ①レキ河原再生から発生する土砂を近隣で実施する築堤工事等へ流用することで、発生土処分費等のコスト縮減する方法を検討する。
- ②必要最低限の維持保全は必要であることから、再生したレキ河原を利活用する組織や市民団体等との連携による維持管理コストの縮減を検討する。



## 5. 評価の視点

### (5) 完了箇所評価の視点

完了箇所評価

#### 1) 今後の事業評価の必要性

- ・整備を完了した水辺整備5地区においては、目的とした事業効果を発現しており、現時点ではフォローアップの必要はない。

#### 2) 改善措置の必要性

完了箇所評価

- ・現時点では、整備した施設等に改善の措置は必要ない。
- ・今後も沿川住民等の意見を把握し、必要に応じて関係自治体と協力して対応する。

#### 3) 同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性

完了箇所評価

- ・当該事業の事業評価手法は妥当と考え、現時点での見直しの必要性はないと考える。

(岐阜県)

対応方針(原案)のとおり、下記事業の継続について異存ありません。

【河川事業】

○庄内川総合水系環境整備事業

(愛知県)

1. 「対応方針(原案)」案に対して異議はありません。

### (1) 再評価

- ・庄内川上流部自然再生事業については、環境学習の開催など、土岐川の環境保全・再生に対する意識が高く、事業の必要性は高い。
- ・春日井地区水辺整備事業については、平成29年度をもってとりやめとする。

### (2) 完了箇所評価

- ・整備を完了した水辺整備5地区においては、目的とした事業効果を発現しており、現時点ではフォローアップの必要はない。

### (3) 水系全体

- ・以上のことから、引き続き、庄内川総合水系環境整備事業を継続する。